

平成二十二年

「路」年間賞

選考委員

内平登代子 江澤多香子 緒方 格子 加藤 佳子
小泉 正巳 佐々木彩乃 佐藤 頼昭 高橋里江子
瀧 正治 中野沙千古 二宮 茂男 藤原 和美
金子美知子

最高賞（賞状・入賞句彫刻楯）

味のある人だ 余白に海がある

緒方 格子

☆美知子 ◎頼昭 ◎正治 ○正巳 ○和美

優秀賞（賞状・入賞句彫刻楯）

胸の隅貸して下さい雨宿り

加藤ゆみ子

◎登代子 ◎彩乃 ◎頼昭 ◎正治

次点

孤独死の荷が抱いていた子の写真

高橋里江子

☆美知子 ◎茂男 ○頼昭 ○正治 ○沙千古

以下高点順

狂わない時計が人を責めている

内平登代子

◎多香子 ◎佳子 ○頼昭 ○沙千古 ○茂男

人だけが甲羅に合わぬ穴を掘る

飯田サイコ

◎沙千古 ◎和美 ○正治

魂にまだ届かない聴診器

日野 輝紀

◎正巳 ◎里江子

プライドの重さに耐える紙の皿

佐々木彩乃

◎格子 ○多香子 ○正巳 ○頼昭

八月の血はいつまでも生乾き

松方 尚義

◎多香子 ○格子 ○里江子

泣き言はよそうよ生きている痛み

土屋 久昭

◎沙千古 ○彩乃 ○頼昭

絞り出してやがて地球を使い切る

加藤ゆみ子

○美知子 ○多香子 ○茂男

雑巾を洗って乾かしている老後

瀧 正治

◎登代子

振り向くと今日もつつかい棒の影

藤原 和美

◎格子

いたわりの歩幅に話し合わせてる

植松 静河

◎佳子

吊し柿敗者復活戦がある

平沢やす子

◎正巳

したたかに急所を外す刺し違え

瀧 正治

◎彩乃

命脈を知って動かぬ冬の蠅

田中寿々夢

◎里江子

ぬるま湯の中で待ってる福祉の手

坂本 嘉三

◎茂男

純白の孤独に誰も気づかない

加藤ゆみ子

◎和美

せめてもの主張余白は俺の色

荻原 鹿声

○美知子 ○正治

目と耳を削いで枯野を渡り切る

藤原 和美

○登代子 ○多香子

錯覚の海で崩れていく積み木

佐々木彩乃

○登代子 ○格子

ふるさとは消えない語尾のアクセント

荻原 鹿声

○登代子 ○佳子

充電はきかない神の持ち時間

原田 和洋

○佳子 ○沙千古

信号が見えぬ家族の交差点

木村 紀夫

○彩乃 ○茂男

アナログのまままで天寿を待っている

望月 弘

○里江子 ○正治

まだ伸びるレールの先が怖い老い

瀧 正治

○里江子 ○沙千古

八月の行間にある涙壺

潮田 春雄

○美知子

化かされて化けて人とは哀しいね

伊藤三十六

○美知子

こころの目開くと冴える波の音

渡部トミ子

○美知子

自叙伝にそっと挿し込む正誤表

佐藤 章子

○登代子

少年の大志も混じる青みどろ

高橋里江子

○登代子

慌てない時間たっぷりかけて老い

斉藤 孝

○多香子

ポケットに詰め込んだきた千の雲

岡田 話史

○多香子

表札にアナログとある侘住まい

望月 弘

○格子

一徹の道へ蜜柑は青いまま

鈴木 安弘

○格子

地べたから生えたみたいなのが好き

円城 茂子

○格子

B面で生き抜くという負け惜しみ

○佳子

小泉 正巳

敗者復活神の拾ってくれた手だ

○佳子

大橋 政良

失うと得難い友の道化役

○佳子

松方 尚義

頑張らぬ人生を聞く流れ星

○正巳

飯田サイコ

春風に抜け殻が舞う少年期

○正巳

小安 湖雪

正直な奴だ未だに貝のまま

○正巳

荻原 鹿声

くしゃみして噂を買いにまた街へ

○彩乃

岩淵 黙人

終の地になるかも知れぬ花の種

○彩乃

荻原 鹿声

不可もなく可もなく今日の花ぐもり

○彩乃

池田 和子

気が付いてみると水溜まりにひとり

○頼昭

瀧 正治

まっとうに生きて使える感嘆詞

○里江子

緒方 格子

一言を残して自我を折りたたむ

○里江子

角田 誠

捨て切れぬ野心を入れる火消しつぼ

○正治

原田 和洋

身の丈にまだ見栄がある骨密度

○茂男

飯田サイコ

道問えば海は無言で押し返す

伊藤 英龍

○茂男

完全な和解などない握手する

石井 沙江

○沙千古

さてどこで使いましょうか接続詞

荻原 鹿声

○和美

勲章にはるかな位置で耕す地

原田 和洋

○和美

薫風というだまし絵を描いている

斉藤らいぎ

○和美

爽快な空から落ちてくる不安

芹沢美知子

○和美

選考の経緯・方法は次の通りです。

一、選考対象句は、「路」誌「552号」563号の推薦句。

二、選考委員は、七句（特選二句各三点、佳作五句各一点、

但し、主宰はそれぞれに一点を加算する）を推薦する。

合計点の高い順に、最高賞、優秀賞各一句を主宰が決める。

上位が同点の場合は、主宰が一句に決定する。

（整理 堀井 勉）

受賞の言葉

緒方 格子



「海よ、僕らの使ふ文字では、お前の中に母がいる。そして母よ、仏蘭西人の言葉では、あなたの中に海がある」と詠った詩人がいます。確かに、静かな海を見ていると母の胸に抱かれている様な安らぎを覚えます。人間味に海がある人、そんな人には思慕と畏敬の念を持たざるを得なくなつてまいります。その思いを秘めて作った句です。選考して戴き感謝申し上げます。

加藤ゆみ子



身に余る大きな賞をありがとうございます。ございます。思いもかけない嬉しいお知らせに戸惑っています。

半具象・半抽象という「路」の水が肌に合うようで、入会以来二年間心地よく過ごさせていただいています。今回、つぶやきに近い句に光を当てていただけましたことは、大きな喜びです。ご推薦くださった先生方、選考委員の皆様にご心から御礼申し上げます。